

# 津島市市政報告会（北小学校区開催）会議録

日程 令和6年6月29日（土）

午後2時～3時10分

会場 北小学校区コミュニティハウス

## 1 開催対象

北小学校区にお住まいの方（参加者：23人）

## 2 内容

市長説明（14：00～14：45）

質疑応答（14：46～15：10）

## 3 市長説明

テーマ「津島市の取り組みについて『まちづくり、子育て支援、そして定住へ』  
つしま未来創造予算を中心に」

## 4 質疑応答（要旨）及び回答

### （1）防災について

#### 意見

この地域には南海トラフ巨大地震の心配があり、津島市にも被害が想定される。今年発災した能登半島地震のようなことが起きたらどうしたらいいか。耐震性貯水槽があるというが水もあつという間になくなってしまわないか。また、津島市は地盤が柔らかく非常に危険度が高いと聞いている。震災について避難所をどこに建てるか、食糧、他市町村の助けの対応などある程度準備した方がいいではないか。私は津島北高等学校の近くに住んでいるが、北小学校区住民の指定避難場所になっている津島市立北小学校にすべての住民は入りきらないと思う。津島北高等学校は一時避難場所になっているが指定避難場所ではないので市から食糧などの公的援助はおそらく受けられないとの話である。そうしたことについてもお聞きしたかった。

#### 市長

防災というとマイナーなイメージを持たれるかもしれないが、津島市では市の成長戦略として定めた5つの柱の2つ目に防災を位置付けており、この10年間やってきた。その一つが約20億円をかけた水道の耐震化である。さらに地震による液状化現象についても水道へのダメージは起こり得る。そうした中で耐震化した水道が無傷である保証はない。そこで現地現物に水を確保するために限られたリソースの中で避難所となる各小中学校へ40トンの耐震性貯水槽の設置も行っている。能登半島地震の教訓を踏まえ、令和6年度予算を急遽変更したことが何点かある。一つは備蓄。そして住宅の耐震化である。能登半島地震でも初期の死亡者は9割が住宅の倒壊によるものであったので木造住宅耐

震化改修費の補助金を最大 150 万円とした。これはこの地域では津島がトップである。そうしたことで思い切って住宅の耐震化を促そうということである。耐震化は強制ではないが、これだけの補助金を用意したのは市としてのメッセージである。併せて空家解体促進費の補助金も従来の最大 20 万円から 50 万円へ増額した。近隣の家で気になる家があればご活用を促していただくのも一つの方法である。行政は所有物に手を出せないが、こうした補助金で事業を進める。これら事業については広報と一緒に全戸配布した施政方針に掲載しているのでぜひ見ていただきたい。まだ十分だとは言えないがこのように令和 6 年度能登半島地震の教訓を踏まえた事業を実施する。南海トラフ巨大地震は必ず発生する。その時を迎えるにあたり今できることは何かということである。災害ゼロというのは難しいが減災に結び付けるために自分でできることは、家具の転倒防止や住宅の耐震化などあると思う。そのうえで協働による共助、公助としての設備投資があり自助、共助、公助三つが一体となった形で進めることが大切である。日本列島は地殻変動で成立したものであり、地震を止めることはできない。どこでも災害の起こり得る中で、しっかりと今できることを完璧の無い中でやれることをそれぞれの立場で進めるということではないかと思う。

## (2) 子育て支援について

### 意見

ご説明いただいた攻めの成長戦略は素晴らしいと思う。守りの戦略は人口減少対策と子育て支援だと考える。その一つでつしま出産祝い金とつしま出産応援金は、現在 5 万円分となっており、配分が少ないのではないかと思うがもっと増やせないものだろうか。

### 市長

一つの施策ではなくトータルで子育て支援を行わなければならない。その一つがつしま出産祝い金とつしま出産応援金の 5 万円である。限られた財政の中トータルで特徴のある政策を含め一つ一つ進めていくことが大切である。

## (3) 水道の耐震化とその他の質問について

### 意見

二点質問をする。

一つは、水道の耐震管工事を行っているとのことだが、これは本管に対するものか。

もう一つは、もっと他に質問したいことがあるがどうやってお聞きすれば良いか。

### 市長

水道管については本管を替えている。現在の日本のトップ水準の耐震性のある管に置き換えている。ただしそれは本管であり、他にもたくさんの水道管はあるため、北小学校などの避難所に指定されている施設や市民病院や公民館を優先して管の改修を進めている。ただしまだ十分でないので避難所の耐震性貯水槽で対応する。

その他いろんなご質問があれば秘書課を通じてまた私にお話ししていただければ対応する。

#### (4) 財源について

##### 意見

日本一のプログラミング教育には感銘を受けたがこれが続けていく中で、財源が大切だが、いただいた資料には財源の掲載が無かった。こうした事業に今後も予算がつけられると良いがどうお考えか。

##### 市長

今日ご説明した様々な施策の原点は徹底的な行財政改革である。9年間で91億の効果額を上げ、その三分の一の30億を財政調整基金に回し、あとは事業費に活用している。

プログラミング教育については、岸田総理がデジタル田園都市国家構想を打ち上げたときに津島市が取りに行った4つの補助金の一つを充てている。この補助金の獲得は短い期間の中で職員が頑張ってくれたおかげで約8,000万円取って事業化した。市の自主財源は10分の1でスタートしている。プログラミング教育は小中学校において、人型ロボットとレゴブロックを活用して進めている。令和6年度で本事業は三か年の一区切りとなる。夏季には市長杯の開催も行う。継続については、行財政改革による財政調整基金があるので大丈夫。私が市長になったとき、財政調整基金が4年後にはゼロになると議会で言われた。だが現実異なる。市は投資的経費として令和3年度に7億、4年度に21億、5年度23億5,000万、6年度は31億円を継続して活用しているが、それでも市民1人あたり財政調整基金が愛知県下7番目になるほど残っている。歳出はいろんなことがあるかもしれないので、そうした時に投資的経費を下げるが、そうでない時にはやれることをしっかりと対応をしていく。財政に関するご心配は分かる。家計であれば円安など不安なニュースもあるが、自分自身、社会自身がスキルアップできるような日本にしていかなければならない。そうした流れに市も乗っていく。新しい挑戦、投資をしなければならない。心配は分かるが、それをフラッグに揚げたところで何の解決にもならない。前を向いて、職員の努力による行財政改革を踏まえ、そうしたことを資源に人口減少社会にも耐えうるような津島としていくことが、市民のハピネスに繋がる。一つのことだけでなくトータルで考えて、どこに投資をしていくか、今後は勝負の年ではないかと考えている。